

総括答弁(要旨)

事務長 串田 弘史

輸送サービス労組は、結成から4年を迎えることができた。新しいコロナウイルスの蔓延など、多くの活動が制約された中でも地道に一人ひとりが輸送サービス労組運動を取り組み、何よりも組合員のために存在する組織の重要性を感じ、その存在意義を噛み締めながらこの4年間の運動をつつと上げ、今の私たちが存在します。輸送サービス労組がなければ職場には笑顔も存在しなくなってしまう。

それでもローカンの「真の笑顔と活気あふれる職場の実現」を訴えているのは底から笑うことができない、人の目・顔色を気にして起きていることを発信できない、そういう人たちが多くいる中で、鉄道会社に相応しく働いている活気あふれる職場を取り戻していかないと何よりも大切なことだと思っています。それを実現することが私たちの使命です。輸送サービス労組の飛躍、組織拡大を実現していかないと全参加者、そして全職場に訴えます。まずは第一組合員の方へ、すべての仲間へ、責任を持って行動の展開こそが私たちの責務であることをお願いいたします。第7回定期大会までの職場活動を基礎として輸送サービス労組運動の展開を強く要請します。

安全のエキスパートとして、

会社姿勢を是正し、安全性再確立を実現しよう！

今委員会ではJR東日本の安全の危機感という認識から運動課題の一番「安全」を掲げました。「安全」とは事故・災害・犯罪などの危害に対して個人や一般社会が許容できない領域を指している状態のことを言います。安全は「安全」という場合の「安全」が許容可能な水準に抑えられている状態を指します。JR東日本の安全を再確立していく場合、事故をゼロに抑えられ、可能な限りリスクをキチキチと抑え込まなければ安全を高めることができません。この考え方を踏まえて、JR東日本の安全を再確立していくためにはシステムや区間別「安全」が、JR東日本内の一層の問題となっていると考えています。

2月10日 大田区産業プラザPIO コンベンションホール



JR 東日本輸送サービス労働組合 第4回定期中央委員会を開催し、すべての議事を満場一致で承認！ 輸送サービス労組の飛躍をすべての仲間の方で実現しよう！

THE JTSU-E JOURNAL 2024年 2月26日(月) 号外. Includes contact info and logo.

積極的な姿勢の上に成り立ちます。事故への向き合い方、体質化した問題を是正させるのが輸送サービス労組の使命です。安全のエキスパートとして、会社姿勢を是正し、安全性再確立を実現しよう！

2024年度賃金のベースアップの意味を

正しく捉え、職場からのたたかひを！

賃金引き上げに関しては、年功賃金の根幹をなす「定期昇給・昇給係数4の完全実施」の実現を大前提にしながら、2024年度賃金のベースアップの実現について話していきます。2024年度賃金のベースアップは「基本給改定率」の引き上げと「定期昇給率」の引き上げが柱となります。2024年度賃金のベースアップは「基本給改定率」の引き上げと「定期昇給率」の引き上げが柱となります。

輸送サービス労働運動への「共感」から「すべての仲間」の 真実の声に基づく「共創」へ！ 1. JR東日本の安全性再確立！ 鉄道という“命をあずかる労働”を守り発展させ、地域と社会に必要とされるJR東日本であり続けよう！

2024年度賃金のベースアップは「基本給改定率」の引き上げと「定期昇給率」の引き上げが柱となります。2024年度賃金のベースアップは「基本給改定率」の引き上げと「定期昇給率」の引き上げが柱となります。

主催者あいさつ(要旨)

中央執行委員長 佐々木 宏充

JR東日本の安全は危機的状況 命を最優先とする

2月10日、日曜日の輸送サービス労組結成の年を迎えることができました。日頃から輸送サービス労組運動を全うして取り組んでいただいているすべての仲間の皆様に感謝申し上げます。

止まらぬ物価上昇と高まる労働の価値に見合った賃上げは

先口開催された労連でメンバーには名の個人加盟の仲間が参加しました。本会と比べても劣悪な労働条件・労働環境がもたらしている現実には、労働・同一賃金の原則を踏まえ、低賃金化は、労働者全体の生活が向上しないまま賃上げを強いることが取らざるを得ない状況が最大の問題です。

「新たなシフトローテーション」に抗するため、職場議論を強化しよう！

私たちが鉄道会社・役割を本気でとらえ、とらえ直して「労働者」の権利を主張して「新たなシフトローテーション」の早期実現に向けて挑戦してまいります。労働者としての権利を主張して「新たなシフトローテーション」の早期実現に向けて挑戦してまいります。

「脱退パワハラ訴訟」控訴審勝利と 結成5年目の飛躍を

昨年8月10日、4年間の脱退パワハラ個人訴訟で勝利しました。あったらなかったらどうなっていたらあつたか。真実を社会に明らかにしていかないと、あつたあつたまま手をつたてたままではいけません。

物価上昇と賃上げが追いついていない状況は、毎月労働者にとって大きな負担となっています。賃上げが物価の上昇に追いついていない状況は、毎月労働者にとって大きな負担となっています。

JTSU-E 2024 春 ベースアップ 一律3,000円+基本給の定率5% 地域および等級区分によって定める エルダージ賃金に一律18,000円加算

労務調査を見て明らかです。そればかりが様々な会社施策によって生産性向上が図られています。私たちの労働の価値を認めよう！



委員会をリードした議長団 (右から敬称略)

小松 健太郎 (東京)
安達 純一 (水戸)

J R東日本グループで働く誰もが
働きたい・生きがい・こころの豊かさが実感できるように
労働条件・労働環境の向上に取り組むことは経営責任だ

▼「一人ひとりの業務量が増し生産性の向上が図られ、私たちの労働の価値が高まっている。初任給の改定も若手社員の処遇...」
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」



第4回定期中央委員会

結成から5年目の飛躍を目指し、委員会宣言を採択!

委員会宣言 (案)

J R東日本輸送サービス労働組合は、第4回定期中央委員会を大田区産業プラザPi0において開催し「すべての仲間」の真実の声に基づく「共創」によって輸送サービス労組を飛躍させ、2024年度賃金のベースアップを実現するたたくいはじめとする諸課題に「職場を原点にした運動」を強化し、全組合員と働く労働者への「共感」をつくり出すことを満場一致で確認した。

輸送サービス労組は労使で確認した「ベースアップは物価上昇分を考慮した生活維持向上分」を大前提に「純ペアー一律 3,000円+5%」のベースアップを求める。さらに、昨秋に取り組んだ職場実態アンケートでの「多職種の経験や兼務による多能化」「経験や知識が向上していることからも現在の定期昇給額では不十分」という声に踏まえ「昇給係数「4」の完全実施」と『所定昇給額 2,000~3,000円の増額』を求めていく。その機運の高まりは、厚生労働省が「実質賃金は2年連続でマイナス」と発表し、物価高に賃金上昇が追い付いていないことを明らかにし、岸田首相や経団連もまた「物価上昇に負けない賃金引き上げを目指すことが経団連・企業の社会的責務」と考え方を表明しているからだ。

昨年末、会社から「新賃金と夏季手当について」が提案されたが、賃金引き上げと夏季手当の交渉を同時に行い「賃金を抑制し手当て多く見せる」誤魔化しや、年功賃金の破壊は認めるわけにはいかない。先日発表された第3四半期決算では増収増益による多能化「経験や知識が向上していることからも現在の定期昇給額では不十分」という声に踏まえ「昇給係数「4」の完全実施」と『所定昇給額 2,000~3,000円の増額』を求めていく。その機運の高まりは、厚生労働省が「実質賃金は2年連続でマイナス」と発表し、物価高に賃金上昇が追い付いていないことを明らかにし、岸田首相や経団連もまた「物価上昇に負けない賃金引き上げを目指すことが経団連・企業の社会的責務」と考え方を表明しているからだ。

『グループ安全計画2028』では「本質を踏まえ、想定外も想像して安全を先取る」を柱としているが、J R東日本の安全は危機的状況に瀕している。昨年、内房線総姿〜竹岡間で発生した感電死亡事故では協力会社作業員の尊い命が犠牲となった。そして、1月23日に発生した東北新幹線上野〜大宮間での架線垂下に伴う大規模輸送障害では、復旧作業中に協力会社作業員の感電事故が発生した。団体交渉で確認した「危険と感じたら電気を止める」「安全の担保ができれば停電させる」という基本も守られていない。矢継ぎ早に実施される組織再編や「融合と連携」、現業機関の業務体制見直し、ワンマン運転拡大などの施策は、発生している課題の検証なども行われず実施ありきであり、大規模な効率化によって現場は疲弊し安全性のみならず利便性も低下している。日本航空と海上保安庁の航空機の衝突事故を契機に「ヒューマンエラー」の防止に社会的にも注目が集まっている。私たちは「事故予防」の視点に基づき、安全分科会の取り組みを強化し、地域と社会から必要とされる鉄道を残していかなければならない。

輸送サービス労組は「新たなジョブローテーション」の撤廃を求める！
安全・サービスレベルの低下のみならず、鉄道の専門性、働く者の人間性を蔑ろにし、蓄積された技術技能を有する社員を希望しない職種に転動させ、心身に不調をきたし、ILO (国際労働機関) が提唱するディーセントワーク (働きたいのある人間らしい仕事) からは程遠い。組合員・社員の被害が発生している現実とは到底言えず人権侵害だ。水戸・東京地本が東京都労働委員会にその実態を訴える実践で、私たちは労働者救済機関の活用や、労連議員懇談会をはじめとする議員への説明・相談なども行っていく。社会的にも企業が行うハラスメント・不法行為には厳しい目が向けられている。4月24日の『脱退パワハラ訴訟』の控訴審判決や第三者機関を活用したすべてのたたくいの勝利と、労組対策のみを重視する経営姿勢を是正し、一人ひとりが輸送サービス労組運動をつくりあげよう！

今のJ R東日本は離職者数の増加や、「従業員のネガティブ投稿ランキング」で年間1位となるなど、組合員・社員の働きたいは低下の一途を辿っている。真の笑顔と活気あふれる職場を実現するために、私たちの未来を創造掲げた『未来ビジョン』の取り組みを推し進めよう。すべての組合員が主役となり、輸送サービス労組への結集を堂々と呼びかけ、結成から5年目を迎える輸送サービス労組の更なる飛躍をかちとろう！

以上、宣言する。

2024年2月10日
J R東日本輸送サービス労働組合
第4回定期中央委員会

JTSU-E 春 2024

日時 3月2日(土) 13時30分〜16時00分
場所 すみだリバーサイドホール

要求実現を目指し、すべての仲間の結集を!

2024年度賃金のベースアップ・明日への希望が持てる賃金実現!
人の心と生きがいを取り戻し、未来(あす)の雇用を考えよう



17名が運動の成果と歪んだ経営を是正する決意を発言

▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」

施策を担い労働の質は高まっている!
2024年度賃金のベースアップを実現しよう

改善を進めよう。中間層の賃金が抑えられ...
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」

施策実施ありきで組合員・利用者の声を無視
チェック機能を果たし、私たちの手で働きたい向上を

▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」

組織強化と拡大を実現し、
「新たなジョブローテーション」施策は
直ちに撤廃!

▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」

不当労働行為に抗するたたか
いの中で最も大きな成果は、不
当労働行為を受けた組合員がた
たかいた先頭に立ち、それを支
えて分會全体でたたかいたこと
に尽きるとした。(水戸)

▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」
▼「現場では、賞金も手当も上がらない...」